

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	地域の学校として家庭や地域と協力し、社会的な基礎力・想像力を身に付けることにより、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで地域の未来に貢献できる生徒を育成する。		
2 スクール・ポリシー	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識・教養を身に付け、自分の意見や考えをしっかりとつことのできる生徒 ・マナーを身に付け、社会の一員としての責任を自覚し、進んで社会に参画できる生徒 ・他を思いやり、さわやかな挨拶を交わせるなど望ましい人間関係が築ける生徒 	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインを取り入れた授業改善に取り組み、ICT機器を効果的に利用し、生徒のレベルにあった生徒の興味・関心を喚起する生徒参加型の授業の実践 ・各授業において、タブレットなどICT機器の利用などを通して「学び直し」の機会を設けることによる基礎学力の確実な定着 ・各種検定の挑戦・取得を通して、学習に対する意欲を喚起させるとともに進路(進学・就職)に対する意識を高めさせることによる進路の実現 	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な学力を身に付け、さらに本校の学習によって専門的知識・技術を身に付けることにより、未来に向けて地域の発展に貢献したい生徒 ・生徒会・Sクラブ・MSリーダーズ・家庭クラブ等を中心とした奉仕活動や、地域活動へ積極的に参加することにより、豊かな人間性と個性の伸長を図ることができる生徒 ・自分の将来について真剣に考えることができ、挨拶、他者への配慮等社会的なマナーを身に付け、地域社会で活躍したい生徒

3 評価する領域・分野	◇教務
4 現状の分析	<p>○学校評価アンケート（7月実施）では、「本校に入学できてよかった」の項目に対する肯定的評価が生徒84%（80%前年度数値）・保護者81%（79%）となった。「生徒の多様化に伴い、多様な価値観やニーズに対応できる教育を行っている」の項目では、生徒71%（61%）・保護者74%（61%）、「役に立つ喜びを感じる生徒、存在感を示すことができる生徒を育てようとしている」の項目では、生徒71%（62%）・保護者66%（62%）が肯定的評価をしており、いずれも昨年度より高い評価を得た。また、生徒独自の質問項目「熱心に学習指導・生徒指導などに取り組んでいる先生が多い。」では86%（77%）、「専門的知識が豊富であり、授業内容について信頼できる先生が多い」では80%（74%）の肯定的評価を得た。保護者独自の質問項目「教職員は学校経営や教育活動に熱心に取り組む、魅力ある学校づくりに意気込みが感じられる」では、81%（72%）の肯定的評価を得た。このように高い評価を得た背景については、長年積み重ねてきた生徒指導の取組や、単位制に移行したことに伴う実態に即した教育課程の編成等が身を結んだ結果だと思われる。一方で、保護者の回答率は36%と極めて低く、アンケートの実施方法を考える必要がある。</p> <p>○生活実態調査（11月実施）の結果、約80%の生徒が「学校が楽しい」と答えており、「目的をもって入学したか」「目的を決め、学習に取り組んでいるか」「授業・学習に積極的に取り組んでいるか」「行事・生徒会に積極的か」の質問項目で「はい」と答える生徒の割合が過去3年間の中で最も高くなった。また、「平日の学習時間」「休日の学習時間」の項目では、「全くしない」も含め1時間未満と答える生徒の割合も、過去3年間の中で最小となり、学校全体が落ち着き、学習に取り組む環境が整った成果が少しずつ出てきていると思われる。一方で、目的をもち入学する生徒や目的をもち高校生活を送っている生徒が約3割程度存在しており、さらなる魅力ある学校づくりや分かったと実感できる授業づくりを進めていく必要がある。</p>
5 学校の抱える課題	<p>○様々な問題を抱え、基礎学力が定着していないまま入学してくる生徒への学習保障をいかにしていくか。</p> <p>○学習を含め、学校生活全般に対して無気力・無関心な生徒に対して、いかにアプローチしていくか。</p> <p>○総合的な探究の時間をはじめ、探究活動をいかに展開していくか。</p>

6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律の徹底及び主体的、継続的な学習習慣の育成 ・基礎知識の定着及び自己表現力、コミュニケーション能力の育成 ・単位制をより効果的なものとするための教育課程の研究 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 統一した指導基準・方法による授業規律の徹底 (2) 成績不良者の削減及び資格取得者数の増加 (3) 研究授業の実践と教科会における協議	(1) 学校評価アンケート及び生活実態調査の結果 (2) 成績不良者数と資格取得者数 (3) 研究公開授業、授業理解度・授業改善の調査結果	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部、学年会、教科会など、他分掌と連携し、授業規律の徹底を図る。 ・進路指導部と連携し、卒業後の進路を見据えた学習の動機づけを促すとともに、積極的な資格取得を促す。 ・全教科で公開授業を実施し、ICT機器を活用した授業改善に努めるとともに、探究活動の在り方について研究する。 	①授業規律の徹底状況 ②成績不良者数及び資格取得者数 ③授業改善の進捗状況	A (B) C D A (B) C D A B (C) D
12 成果・課題	○年度当初に全職員への共通理解を図り、授業規律の徹底に努めている。長年の取組の成果が少しずつ実を結び、落ち着いた姿勢で授業に臨む生徒が多くなり、授業への遅刻や中抜け等が見られなくなった。学校全体として次の段階へ進む時期に来ており、探究的な活動を取り入れるなど、授業の内容を今まで以上に深めていきたい。 ○昨年度末に、観点別評価の「主体的に学習に取り組む態度」をどのように評価するのかについて、授業の参加態度を数値化することで、具体的かつ公平に評価できるよう内規を変更した。それに基づき、補充や再試等の在り方についても、学習支援・学習保障の観点から改善した。その結果、成績不良者数（補充対象者数）も減り、単位未修得のまま進級・卒業する生徒数も減ってきている。また、商業科目を中心に、積極的に資格取得を促すとともに、特別進学クラスに補習参加及び外部模試受験を条件づけたことにより、今まで以上に進路に対する意識付けを行うことができた。 ▲総合的な探究の時間も含め、探究活動が根付いていない。また、タブレット等を活用した授業実践も少なく、全国的に進んでいる「新しい学び」から遅れをとっている。	
13 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> ・「授業規律」の徹底を継続しながら、授業内容の深化について研究を進めていく。 ・進路指導部や教科と連携し、探究的な学習活動について研究し、学習の動機づけを促すとともに、生徒の進路ニーズに対応したカリキュラムを研究する。 ・「探究的な学び」について研究を進めるプロジェクトチームが発足したばかりであるが、総合的な探究の時間の在り方はもちろんのこと、教科授業における探究活動についても研究を進め、タブレット等のICT機器の活用と並行しながら授業改善に取り組んでいく。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月27日

【意見・要望・評価等】
<ul style="list-style-type: none"> ・「探究的な学び」についてのプロジェクトチームで研究する目的、内容を明確にし、ぜひ本校にふさわしい学習形態を作り上げてほしい。 ・多様な課題をもつ生徒が通う中、学校評価アンケートで肯定的な回答が年々増加していることが、本校の取組の成果を表している。 ・地域、保護者の本校に対する期待は大きい。今後も地域、保護者と連携を取りながら学校づくりを進めてほしい。

3 評価する領域・分野	◇進路指導
4 現状の分析	○7月に実施した学校評価アンケートでは、進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている（90%）進路説明会を後日YouTube配信していることが良かったと考える。 ○生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている（80%）生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている（82%）で80%を超える回答を得ることが出来た。 ▲上記の質問でわからない（13%）と回答する生徒がいるため、もう少しわかりやすい進路情報の提供に努めたい。
5 学校の抱える課題	◇週末に勉強する習慣が身に付いていない。 ◇模試を受ける生徒が少ない。 ◇働くことに対する意識が低い。

6	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・classiやスタディサプリで週末課題を配信する。 ・四大への進学希望者に模試と補習を実施する。 ・Handy進路指導室を導入し、求人票を見やすいように工夫する。 			
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8	達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 週末課題ができなかった生徒に対して、追加課題を出し、学習習慣を身に付けることができるように指導する。 (2) 特別進学クラスについては、模試と補習を必ず受けるように指導する。 (3) 3年生だけでなく、2年生も求人票を見ることができるようにして、早い段階から就職を意識することができるように指導する。		(1) classiやスタディサプリのアプリ上での課題実施率。 (2) 模試の受験者数と補習の受講者数。 (3) Handy進路指導室の登録者数。			
9	取組状況・実践内容等	10	評価視点	11	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・週末課題がまったくできない生徒に対して、進路指導部長による保護者懇談を実施。 ・模試では、難しい問題も最後まで一生懸命に取り組む姿勢が見られた。 ・就職希望者のほとんどが第一希望の就職内定をいただくことができた。 		①他校に比べて実施率が高い。生活実態調査の結果が良い。 ②補習を受講して良かったと答える生徒が多かった。 ③就職内定率が高い。		(A) B C D A (B) C D A (B) C D	
12	成果	○生活実態調査の結果、特に1年生が休日は勉強すると回答する率が、前年度より高かった。2年生は、金曜日に連絡しなくても週末課題に取り組める生徒が増加した。 ・夏休みの3日間と冬休みの3日間、3時間ずつ補習を実施したが、ほとんどの生徒が参加していた。 ▲週末課題に取り組まない生徒は全く取り組まない。進路指導部長による保護者懇談を実施してもあまり改善が見られなかった。		総合評価 A (B) C D	
13	来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部だけでなく、各教科から週末課題が配信できるようにする。 ・模試のレベルに対応した授業ができるように工夫する。 ・1年生から進路に対する意識を高めることができるように、今年度3年生で実施したことを2年生で、2年生で実施したことを1年生で行えるように工夫する。 			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月27日

【意見・要望・評価等】 <ul style="list-style-type: none"> ・配信される週末課題について、多くの生徒が決められた範囲を最後まで取り組めており、学習率も他校と比較して高いというデータもあり、成果が出ている。一部の取組が不十分な生徒について、個別の指導をしているということなので、全員が主体的に取り組めるよう指導を継続してほしい。 ・羽島市内の企業は人材を求めている。生徒には様々な企業に目を向けて、進路実現してほしい。

3	評価する領域・分野	◇生徒指導・教育相談
4	現状の分析	○7月に実施した学校評価アンケートでは、頭髪、服装等身だしなみ指導を積極的に行っているという質問に対し、生徒・保護者ともに80%超で実施していると回答している。昨年度より、原則月に1度、事前告知の上で学年別実施したこと、複数名の生徒指導部員で指導に当たったことに加え、今年度は一斉再検査日を設けたことでこのような回答を得られたのだと思う。 ○基本的なモラルやマナーを身につけさせるような指導について、生徒からは80%超の肯定的回答を得た。 ▲保護者からの回答では、多くの項目に対し【わからない】という回答がある。取り組み状況の広報の仕方を検討する必要がある。
5	学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣が身につけていない生徒が一定数いる。 ・TPOに応じて身だしなみを整えることがあまり得意ではない。 ・コミュニケーションが苦手な生徒が多くみられる。
6	今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立（特に遅刻指導） ・全校体制による身だしなみ指導 ・いじめを許さない学校づくり

<p>7 目標の達成に必要な具体的な取組</p> <p>(1) 遅刻ゼロデーの導入、授業の中抜け、遅刻に対し回数に応じた指導の実施</p> <p>(2) 毎月学年別の身だしなみ検査、その後全校一斉再検査の実施および日常の声掛け</p> <p>(3) 教育面談やアンケートによるいじめの発見</p>	<p>8 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p> <p>(1) 生徒別遅刻回数のカウント。月ごとのクラス別遅刻者数。</p> <p>(2) 学校評価アンケートなどの評価。身だしなみ検査違反者の人数。</p> <p>(3) いじめ調査による実態把握。</p>	
<p>9 取組状況・実践内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会，MSリーダーズによる広報活動。全職員体制による声掛け。生活改善シートの導入。回数に応じた遅刻指導と保護者連絡の徹底および協力要請の依頼。 学年別身だしなみ検査の実施。1か月前からの検査日、再検査日の予告。生徒指導部員を中心とした全職員による指導体制。声掛け。 懇談やいじめ調査等で出てきた情報を基に担任や学年会と連携、情報共有するとともに、何事も早期発見早期対応。 	<p>10 評価視点</p> <p>①遅刻者数の減少</p> <p>②身だしなみの改善</p> <p>③いじめへの対応</p>	<p>11 評価</p> <p>A B C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
<p>12 成果課題</p>	<p>○遅刻ゼロデーの導入により、遅刻者数が減少してきた。また時間を気にかけて生活できる生徒が増加した。</p> <p>○遅刻指導担当者や生活改善シートの導入により、指導の抜け落ちが減った。</p> <p>○毎月実施している身だしなみ指導が学校生活に定着しており、さらに、実施日を事前連絡することで生徒の意識付けができた。また一斉再点検日を設けたことで、事後指導も丁寧に行うことができている。</p> <p>○情報共有が円滑に行われていることで、小さな事柄も丁寧に対応できた。</p> <p>▲学校外でのマナーや社会規範を守れていない。</p> <p>▲SNSにおいて相手の気持ちを汲み取れず発言したり、書き込んだりすることが少しあり、友人間トラブルが見られた。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生において入学早々、重点的に情報モラル研修や人権教育などを実施し、思いやりの心や他者とのかかわり方などの理解を深める。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月27日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会が大きく変化している。一般的に、生徒指導事案では、反社会的事案よりも非社会的事案の方が多く発生している。最近では、反社会的事案は小学校の高学年が多くなっており、低年齢化している。社会情勢の変化に対応しながら、生徒指導を進めていけるとよい。 SNSのトラブルは、高校だけでなく、どこの中学校でも起きている。情報モラルについて、外部講師を活用しながら、生徒へ適切な利用について学ばせてほしい。 学校評価アンケートでは、学校からの生徒指導に関する指導目的を理解できていることが、数値に表れている。積極的なコミュニケーションは効果的なので、今後も生徒への声掛けを継続してほしい。
--

<p>3 評価する領域・分野</p>	<p>◇特別活動</p>
<p>4 現状の分析</p>	<p>○「バレーボール大会」「文化祭」「スポーツフェスティバル」「芸術鑑賞会」などの生徒会行事は、生徒会・各種委員会・部活動等の協力を得て実施することができた。多くの生徒は意欲的に取り組んでいる姿が見られた。</p> <p>▲生徒・保護者アンケートより、「ボランティア活動の大切さを教えると同時にその機会を提供している」において否定的評価が多い。</p> <p>▲部活動の活動場所に顧問が不在の時がある。</p>
<p>5 学校の抱える課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事、生徒会活動の活性化。 地域活動、奉仕活動への積極的参加。 部活動の活性化。
<p>6 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会や委員会、部活動の生徒を中心にして、学校行事や地域活動、奉仕活動に参加できるようにする。 部顧問が交代で部活動に参加できるような教員配置の工夫と校内表彰やHPでPRするなど広報活動の活性化に努める。

<p>7 目標の達成に必要な具体的な取組</p> <p>(1) 生徒の役割分担を明確にして様々な活動の中で責任感を持たせる</p> <p>(2) 地域活動へ生徒会やSクラブなどの部活動を中心として積極的に参加する。</p> <p>(3) 顧問同士の連絡を密にし、顧問不在時間を減らす。 HPにより広報活動を行う。</p>	<p>8 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p> <p>(1) 行事への生徒参加。</p> <p>(2) 地域活動への生徒参加。</p> <p>(3) 部活動の活性化</p>	
<p>9 取組状況・実践内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バレーボール大会、文化祭、スポーツフェスティバル、芸術鑑賞などの行事においても、生徒会が中心となり準備・運営ができた。 ・地域からの依頼等が多くなり、依頼されたボランティアに可能な限り参加した。Sクラブ以外の文化系の部活動も多く参加できた。 ・活動の結果を表彰伝達で全校に伝えることができた。 	<p>10 評価視点</p> <p>①行事への生徒参加。</p> <p>②地域活動への生徒参加。</p> <p>③部活動の活性化</p>	<p>11 評価</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
<p>12 成果 課題</p>	<p>○文化祭の期日が早くなり準備等を心配したが、生徒会やHRTの努力により無事実施することができた。今年からクラスの発表を学年ごとに依頼した結果、ステージ発表に関しては充実していた。</p> <p>▲文化祭は二日間開催であるが、展示部門において二日目の対応ができていなかったクラスがあった。また、スマホの利用に関してルールが守れなかったことがあり、次年度以降、利用に関して再検討が必要である。</p> <p>○昨年よりボランティア等の依頼が多く寄せられ、地域活動へ生徒会執行部をはじめ、部活動の生徒も多く参加することができた。今後は一般の生徒の参加も期待したい。</p> <p>▲部顧問が活動場所に行けないことが多くみられた。その理由として、複数の顧問が配置されているものの、両者とも正担任・同じ学年所属などで懇談や会議などで不在になることがあった。</p>	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部顧問間の連携を図り、どちらか一方の顧問が活動場所に行けるようにすることで、部活動の活性化を図りたい。顧問の配置については、専門性を活かしながら学年・分掌・正副担などでもできるだけ考慮しての配置してもらいたい。また、顧問不在になる場合、他の副顧問や活動場所の近い他の部活の顧問に依頼するようにする。 ・文化祭の展示については、再度、担任に2日目も対応できるように依頼する。現状では文化祭の期間中、何処にも見学に行かず展示会場で休憩をしている生徒もおり、展示クラスの控室などを確保することも考えていきたい。 ・文化祭中のスマホの特別使用に関しては、再検討をしていく。 ・一般生徒の地域参加を募るため、募集要項等を掲示し参加を呼び掛けるようにする。 		

<p>3 評価する領域・分野</p>	<p>◇保健衛生</p>
<p>4 現状の分析</p>	<p>○保健室の利用を必要とする生徒が保健室を利用できるようになってきた（保健室利用者の減少）</p> <p>○命を守る訓練などの行事に、緊張感を持って参加できた</p> <p>○掃除時間に掃除に取り組める生徒が徐々に増えてきた</p> <p>▲掃除に取り組めず帰ってしまう一部の生徒への対応</p>
<p>5 学校の抱える課題</p>	<p>◇全校生徒が参加して実施する掃除</p> <p>◇エアコン、ストーブ使用時の換気（感染症対策）</p>
<p>6 今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の生活習慣、心身の健康状態を把握し、健康的な生活を営む力の育成 ・安全に対する意識・行動を啓発し安全第一とした教育活動の実践 ・点検、整備、美化の継続による、安心・安全な学校づくり
<p>7 目標の達成に必要な具体的な取組</p> <p>(1) 健康診断実施についての事前・事後指導</p> <p>(2) 保健室来室生徒への健康相談・保健指導</p> <p>(3) 定期的安全点検の実施</p>	<p>8 達成度の判断・判定基準あるいは指標</p> <p>(1) 健康診断の受診状況と受信報告書提出状況</p> <p>(2) 保健室来室者状況や来室記録</p> <p>(3) 安全点検結果の集約と修繕状況</p>

9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> 健康診断は、学校医等と連携し、感染症対策と欠席者フォローをしながら、全項目実施した。 頻回来室する生徒の理由は不定愁訴（怠学を含む）や精神的訴え、相談が多いため、スクール相談員の配置や担任、教育相談等と連携し生徒を支援している。 安全点検で指摘された事項について、事務部と連携して修繕する方向で進めることができた。 美化委員、保健委員とも良好な出席率だった。日々の活動においても真面目に取り組む姿勢が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ①健康診断受診率、受信報告書の提出 ②保健室利用状況と記録 ③安全点検結果集約と修繕 ④美化委員、保健委員の出席率と取り組み状況 	<p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p> <p>Ⓐ B C D</p> <p>Ⓐ B C D</p>
12 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○保健室来室者の減少 全体的な保健室来室者は減少傾向にあり、前期来室人数のみ比較すると令和4年度は798人であったが、令和5年度は394人まで減少し、来室合計はおおよそ半分になった。これは、保健室来室カード持参時のみ休養を認めるルールの徹底や巡回教員の保健室見回りに協力いただくことができた結果だと考えられる。 ○歯科検診後の受診報告書提出者増加 令和4年度の受診報告者は8名のみであったが、今年度は25名と3倍に増加した。これは3年生一部生徒の勧告書を治療の必要な箇所が視覚的にわかるように工夫した結果、受診報告者の増加につながったと考えられる。しかし、受診報告書の提出者は全体の2割未満である。来年度は2割超えを目指し、受診勧告書の対象学年を拡大する等を行い受診率向上に努めたい。 ○命を守る訓練、行事への取り組み方 新型コロナウイルスが第5類へ移行後、3年ぶりに全校生徒、全職員が参加をして命を守る訓練が実施できたが、皆真剣な面持ちで、緊張感のある訓練ができた。 ▲掃除への取り組み 全校生徒参加型の一斉掃除ではないため、掃除に行かず帰ってしまう生徒が見られた。 	<p>総合評価</p> <p>A Ⓑ C D</p>
13	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <p>掃除ができていない場所と、できていない場所が明確になった。生徒からも「教室が汚い」「トイレが汚い」との声が上がっているため、生徒と教職員が掃除を一緒に取り組み、徹底的に綺麗にする「掃除週間」を前・後期1回ずつ、計2回実施したい。</p> <p>また、本校は全校生徒参加型の一斉掃除ではないため、段階を経て、全員が掃除に参加できる体制を作り、生徒が落ち着いて学校生活を送れる環境を作りたい。</p>	

3 評価する領域・分野	◇図書・渉外
4 現状の分析	<ul style="list-style-type: none"> ○希望者を対象に、本校職員などによる図書室講座を実施し、参加者からは前向きな意見が聞かれた。 ○文化祭においてPTAバザーを実施することができ、販売の品数も多く、生徒からも好評であった。 ○創立100周年記念式典の実施に向けて、学校内職員との連携、外部との連携をはかり準備にあたることができた。 ▲校舎の修繕等もあり、図書室の利用者数が昨年度に比べ減少している。 ▲PTA総会への保護者の参加者数が少なく、総会のあり方について検討する必要がある。 ▲同窓会総会について、コロナの影響により担当学年の引継ぎができていないため、連携を密にとり、今後について検討する必要がある。
5 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ◇図書室の利用を促し、読書に接する機会を増やす必要がある。 ◇PTAについて、共働きの家庭も多く、保護者の学校行事への参加が厳しい状況にある。

	◇同窓会活動を活性化していくため、学年理事など適任者を選出する必要がある。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の利用を促進し、図書の貸出冊数の増加を目指す。 ・P T Aの学校行事への参加を促し、意見交換できる機会を充実させる。 ・創立100周年記念式典実現に向け、同窓会組織との連携と内容の充実を図る。 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 図書委員の図書館だよりの発行等の活動を通じて全校生徒に読書への興味をもたせる。また、図書室講座を開催する。</p> <p>(2) P T A関連行事についての連絡をその都度発信し、意見交換をする機会を場を設ける。</p> <p>(3) 同窓会との連携を図り、職員・在校生と共に創立100周年記念事業について具体化し、役割を分担を確認する。</p>	<p>(1) 図書貸出数調査、図書館利用者を拡大し、全校生徒に読書への興味をもたせることができたか。</p> <p>(2) P T A関連行事の案内などが保護者へ伝わりP T Aの活動が学校と連携し、適切に実施されているか。</p> <p>(3) 同窓会活動が学校と連携し適切に実施され、創立100周年に向けて進行状況や流れについて十分な検討が行われているか。</p>	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・図書館だよりを発行するなど情報発信に努め、図書室講座を実施し、図書館の利用者拡大や利用者同士の交流を図る。 ・文化祭においてP T Aバザーを実施し、P T A役員との連携を図る。 ・創立100周年記念式典および記念事業の実施について、同窓会と学校職員と連携しながら進める。 	<p>①書籍をより魅力的にアピールし、図書館利用を促進できたか。</p> <p>②P T Aとの連携ができ、学校の活動が理解されているか。</p> <p>③創立100周年記念式典および記念事業が円滑に進めることができたか。</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p>
12 成果・課題	<p>▲工事の関係で、教室から図書館までの移動が不便になったこともあり、利用者が減少した。</p> <p>○本年度は文化祭においてP T Aバザーを実施することができ、事前の準備よりP T A役員と連携をとりながら円滑に進めることができた。</p> <p>▲P T A総会参加者が少ないためP T Aの案内について、紙だけでは保護者へ案内が届いているか不安である。</p> <p>○創立100周年記念式典および記念事業の実施については、同窓会、学校職員、生徒が協力し執り行うことができた。</p> <p>▲コロナ、創立100周年もあり、同窓会総会、引継ぎが途絶えてしまった。</p>	
13 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・どの学年も来館しやすい雰囲気を保つことや出張図書館等も検討して図書館から離れた位置の教室にいる生徒にも利用を促したい。また、新規利用者を増やすため、Formsを利用して生徒の声を広く集めて選書や運営に反映させたい。 ・P T Aバザーについては、品数が多く煩雑であったため、販売品目を検討する。また、販売方法についても再検討する。 ・P T A総会の参加者が少ないため、参加していただけるよう進路行事等とタイアップを検討し、すぐメールで発信し、Formsで出欠を確認できるよう検討する。参加人数が少ない場合は会場についても検討する。 ・同窓会活動については担当学年を明確にし、今後の同窓会の在り方について同窓会と意見交換をする。 	